



※当センターは、フィリピン残留日本人の身元捜し、国籍確認、在日日系人支援等を目的として、2003年11月、弁護士、市民、企業によって設立されました。

## 戦後80年目の夏、政府による訪日事業を実施

### ——マニラで総理との懇談後、政府による招へいが実現の見通し

戦後80年という節目の夏がやってきました。今夏、日本政府による訪日事業が実現します。フィリピン残留日本人を政府が招へいするのは初めてのことです。無国籍状態の2世たちの抜本的な救済は道半ばの状況が続いていましたが、この大きな一歩により救済の道筋が示されることを願います。

#### ■石破総理と2世がマニラ市内で懇談

4月29日、マニラ市内にて石破茂総理と3名の2世、フィリピン日系人会連合会のイネス・マリヤリ会長との懇談が実現しました。石破総理は、すべての2世の国籍取得が実現していないことは悲しむべきこととして、一日も早い国籍取得や一時帰国が実現するよう政府として取り組みたいと語りました。これに対し、元フィリピン日系人会連合会会長で、2015年と2019年の2度にわたり日本政府への陳情団の代表として来日した2世の寺岡カルロスさんは、いまなお無国籍の状態にある49名の困難な状況について触れ「彼らが日本を訪れ、国籍回復に向けた一歩を踏み出せるよう、そして日本人として死ねるよう、政府の力強い支援を」と声を震わせて訴えました。

総理のこうした対応を受けて、外務省は訪日事業の実現に向けて検討を重ねた結果、予算のめどが立ち、政府による招へいが実現する運びとなりました。帰国日程は1回目は8月6日から10日、2回目は8月後半の予定です。

戦後80年という節目の夏、残留日本人問題がいまだに解決していないという現実を世論に訴えるためにも訪日事業が政府によって実施されることの意義は小さくないと考



石破総理と握手を交わす日系人会連合会のイネス会長。右から2人目が寺岡カルロスさん(写真=内閣広報室)

えています。

今回は2名というささやかな規模での訪日事業となりますが、改めてフィリピン残留者問題の今を広く示していきたいと思っています。

#### ■訪日候補者は竹井さんと上原さん

現在、訪日事業に参加する2世の出国準備を急ピッチで進めています。必要書類の準備状況やご本人の体調などによって参加者が変わる可能性もありますが、現段階で訪日を予定している2世は以下の方たちです。

##### ◎竹井ホセさん

竹井さんは、4月の石破総理との懇談に同席していた2世の一人です。ルソン島のラグナ州サンパブロ市在住の竹井さんは1943年5月、日本人の竹



総理面会後に取材を受けているところ。左が竹井ホセさん、右が松田サクエさん。



井銀次郎さんとフィリピン人女性ベニタ アプリルさんとの間に、サンパブロ市で生まれました。両親の間に生まれた子どもはホセさん一人。銀次郎さんはフィリピン国有鉄道の技術者として働きながら、日本軍にも所属していた様子だったとホセさんのお母さんは話していました。戦時下、父は家族と離れ離れになり再会することはできませんでした。当時、ホセさんの手元には、父が母にあげた小さな人形や、両親と一緒に映った写真、軍服に身を包んだ父・銀次郎さんの写真などが残っていたようですが、いずれも戦後に紛失してしまいました。

2009年、厚労省に保管されていた資料から銀次郎さんの記録が見つかり、身元が判明しました。銀次郎さんは日本に帰還し大阪で暮らしていましたが、すでに亡くなっていたことも判明しました。

ホセさんは両親の婚姻の記録がないために国籍回復には困難が予想されていますが、初めて訪れる父の国への期待に胸を膨らませ、大阪の親族の方たちに会うことを心待ちにしています。

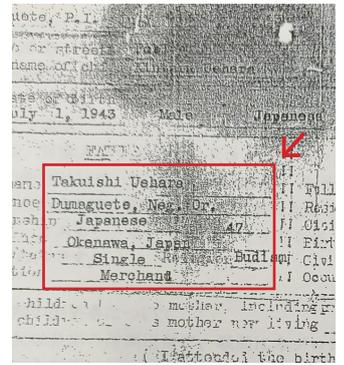
◎上原レオノラさん

レオノラさんにはシゲコという日本名があります。

父親は沖縄出身の上原タケシ／タクイシ（残っている書類の標記はTakuishi）さん、母親はコンラダオマンダムさん。レオノラさんは長女として1940年1月にネグロスオリエンタル州シキホール島で生まれました。レオノラさんのあとに2人の弟が生まれていますが、すでに亡くなっています。一番下の弟の



古い出生記録が見つかり、そこには3番目の子どもとして出生したことや、日本人父の名前や出身地、年齢などが書かれていますが、いまだに父の身元は判明していません。父は戦前から魚の仲買人として働いていましたが、



1945年に病気のため亡くなり、近くの墓地に埋葬されました。貴重な古い記録がありながらいまだに判明しない父の身元。今回の一時帰国で、父に繋がるなんらかの手がかりを見つけたいとレオノラさんは願っています。

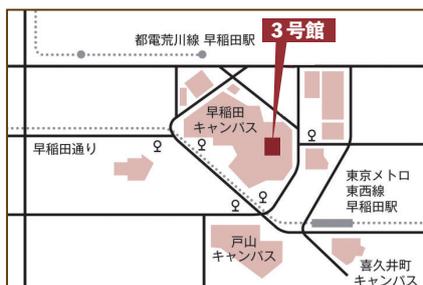
## 2世に直接会って話を聞くことのできる貴重な機会に 訪日中の残留2世を囲むシンポジウムを開催

2世滞在中、NPO法人無国籍ネットワークとの共催、早稲田大学の協力によりシンポジウムを開催します。無国籍ネットの若者グループも準備から積極的に参加。戦争の現実や国籍の問題、国家と個人など、さまざまな視点をもって企画立案にも参画してくれています。時間や申込方法などの詳細は未定ですが、確定次第、公式HPやSNSにて告知します。

「忘れられた日本人～残留2世を囲んで～（仮）」

日時：2025年8月9日（土）（時間未定）

会場：早稲田大学3号館3階305教室



JR・西武線  
「高田馬場」駅から  
徒歩20分

東京メトロ東西線  
「早稲田」駅  
都電荒川線  
「早稲田」駅から  
徒歩5分

下の写真は、過去に実施した集団帰国の時のものです。あの頃は、父親のことを記憶している元気な2世が大勢いたと思うと、過ぎ去った時間の長さを痛感します。今回、可能であれば関東近郊にお住まいの2世もお招きしたいと考えています。フィリピン残留者の長い戦後について、ともに考える時間を過ごしませんか。



上は2006年、右は2013年、それぞれ集団帰国の際に開催したシンポジウムの様子



沖縄のご親族「1日で親戚が100人増えた忘れられない日に」

## 戦後80回目の夏、フィリピンでの親族対面が実現

5月25日、フィリピンのリナパカン島に住む2世盛根エスペランサさん（87）とリディアさん（85）姉妹を沖縄のご親族が訪問、戦後80年の節目の年に、初めての対面が実現しました。エスペランサさんたちのお父さんは沖縄出身の盛根蒲太さん。1945年に戦死した父の名前はモリネ・カマトと記憶され、身元は長らく不明のままでした。

調査の過程で、外務省の外交史料館にある渡航者名簿から、沖縄出身の盛根蒲太さんの名前が見つかりました。フィリピンへ渡航した時期などからも、盛根姉妹の父親である可能性が高いと思われました。

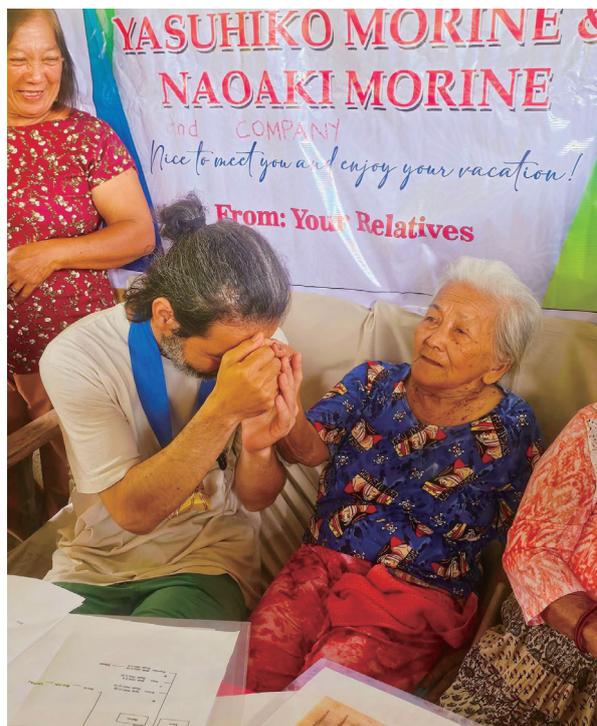
そこから丁寧に聞き取り調査や証拠の収集などを経て盛根蒲太さんが父親であるとの確信を得たことから、2023年10月に那覇家裁に就籍許可の申立を行いました。その間、沖縄の蒲太さんのご親族とも連絡を取るようになり、2024年9月に就籍許可の審判が下りたときには、我がことのように喜んでくださいました。

エスペランサさん、リディアさんに、父の故郷である日本を訪れたいという気持ちはありましたが、高齢のため体力も低下しており訪日を実現させるのは難しい状況でした。訪日が難しいのであれば、ぜひフィリピンで対面したいと、沖縄の親族の方たちがフィリピン行きを判断、今回の喜ばしい親族対面が実現したのです。

### 父の写真に思わずキス

リナパカンを訪れたのは、エスペランサさんたちのいとこの次男にあたる盛根直昭さん（49）と、いとこの孫にあたる盛根康彦さん（40）の2人。康彦さんはエスペランサさんの手を取ると、感極まったように額に手を押し当てました。親族が沖縄から持ってきてくれた蒲太さんの写真を手にしたリディアさんは、思わず写真の父にキスをしました。87歳になるエスペランサさんは、クリアな反応が難しくなりつつありましたが、それでも目に涙をにじませていました。戦後から80年もの長い年月が流れましたが、それでも諦めずに身元捜しを続けたことが、このような夢のような親族対面に繋がったのだと、「最後の一人まで諦めない」という言葉の重さを再認識しました。

ご親族の康彦さんからは「私は今回、生涯に残る体験をしました。1日で100人を越える親戚が増えたのです。事前の話だけでは実感できませんでしたが、会ってすぐに、なんとも言い表せない高揚感が沸きました。こ



沖縄の親族・盛根康彦さん（前列左）と手を取り合う盛根エスペランサさん（右）

んな孤島でよく生き延びてくれたと感激と申し訳なさで胸が熱くなりました。エスペランサおばあ、リディアおばあ、長く暗いトンネルから抜け出し日本人に戻れて本当に良かったと思います。遠く離れた場所ですが気持ちは一つです。皆さんが幸せに暮らせますよう祈っています」とのメッセージをいただきました。直昭さんも「地域によって貧困格差、生活ぶりの違いを目にして心苦しくもなりましたが、島の方々は素晴らしく、姉妹とその家族たちと交流し大切な時間を過ごすことができました」と語ってくださいました。

盛根さん姉妹の喜ばしいニュースは、今もまだ、無国籍状態のまま日本政府からの判断を待ち続けている残留2世たちを強く勇気づけるものとなったはずです。

戦後80年という節目、一時帰国と日本人の父親の身元捜しの実現に、政府が一日も早く取り組んでくれることを強く要望したいと思います。



## PNJK 創立 45 周年の祝賀集會に日本人ネイリスト有志がボランティア参加 美しいネイルと華やかな浴衣で癒やしの時間を

5月18日、ダバオにてフィリピン日系人会 (PNJK) 創立 45 周年の祝賀集會が開催され、2 世を含む 300 人以上が参加し、一緒に記念すべき日の喜びを分かち合いました。

戦後、さまざまな苦勞を重ねてきた 2 世たちに少しでも癒しの時間を過ごしてもらいたいと、日本から 5 名のネイリストが祝賀集會にボランティアとして参加、2 世の爪に美しいネイルアートを施してくれました。プロの技によって自分の手元がみるみる美しく変身していくさまを、施術を受ける 2 世のみなさんはドキドキした表情で真剣に見守っていました。

ネイリストの皆さんは、日本から 40 着ほどの浴衣も持参、日系人たちに似合う浴衣をみつけろってそれぞれに着付けもしてくれました。色とりどりの浴衣を来た参加者で、会場の雰囲気は華やぎを増しました。

美しく爪を塗ってもらった 2 世の大城アンヘリタさんは、「どうもありがとう」と日本語で喜びを語りました。金城口サさんは、思いがけないサプライズに感極まって涙を浮かべつつ、自分の国籍回復を心待ちにしていることを改めて話していました。

今回、浴衣の寄付とともにネイルアートを伝えてくださったネイルサロン協会の理事・高野直枝さんよりメッセージを頂きました。



美しくなった爪を見せて喜ぶ大城アンヘリタさん



「残留 2 世の方々は、日本に帰ることも触れることもできずに 80 年近くの時を過ごしてきました。」もし彼らが日本に帰っていたら、ネイルだって、きっと当たり前を楽しんでいたはず。日本にいたら当たり前でできていたことを届けたい」。それが、私がフィリピンに向かった理由です。ネイルをするたび「ありがとう」「うれしい」と涙ぐむ姿。浴衣を着て、はにかみながら笑うその表情。それは私たちが日常で見ているお客様の笑顔と、何ひとつ変わりません。「ネイルを通して日本人と触れ合えた」ことを「幸せ」と言ってくださるのです。2 世の方々の残された時間は決して多くありません。だからこそ今届けたい。私たちネイリストの仕事は、「ネイルをすること」だけではなく「心に触れること」。その想いが、国を越えて届いた瞬間を私はこの手で確かに感じました。残された時間で、私にできることがまだある。そう信じて、これからも行動していきたいと思います」。



(写真左) 2 世の田中愛子さん(中央)とネイリストの皆さん



## 第11回「プラチナ・ギルド アワード」特別賞

# 共生社会実現のための取り組みを評価

認定NPO法人プラチナ・ギルドの会が主催する「プラチナ・ギルド アワード」の特別表彰を、PNLSCが受賞しました。5月4日に東京ウィメンズプラザで授賞式が開催され、河合弘之代表理事がフィリピン残留日本人問題についてのスピーチをおこないました。

プラチナ・ギルドの会とは、企業人・組織人としての経験を積んだのち、さまざまなフィールドで活躍しておられる定年退職世代による団体です。「小さな力を大きな力に変えていく絆をつくる」ことを目標に、顕彰事業



や支援コンサル事業などを展開。顕彰事業では、毎年、「プラチナ・ギルド アワード」を実施、社会課題解決のために行動する個人や団体を顕彰しています。

今回は、以前に会員メッセージを寄稿いただいた龍田成人さんが創設された、在日フィリピン人への支援をおこなうNPO法人アイキャンもともに同賞を受賞しました。お互いに喜びを分かち合い、今後の活動への思いを新たにしました。

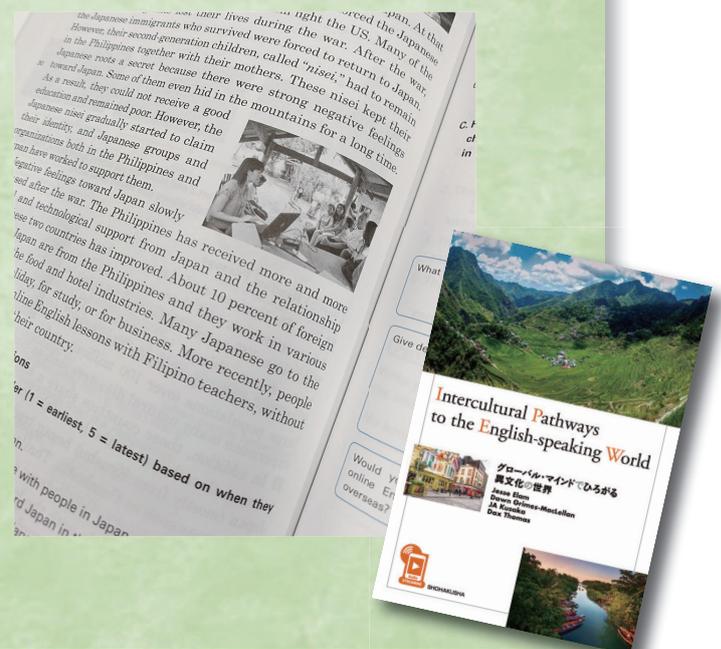


## 大学の「異文化理解」のための英語教材に、 フィリピン残留日本人問題が取り上げられました

大学の異文化理解のための教科書『Intercultural Pathways to the English-speaking World グローバル・マインドで広がる異文化の世界』（松柏社）に、フィリピン残留日本人が取り上げられています。

世界のさまざまな国や地域について英語で理解を深めていくための教材で、歴史や文化、環境などの面からそれぞれの国にアプローチしています。フィリピンの章では16世紀まで遡って日比の交流の歴史をひもとく、後半では、かなりのボリュームで戦前の日本人移民の暮らしの様子や、太平洋戦争で在留邦人が徴用されたことにも触れ、戦後に2世が残留した経緯と国籍回復に向けた日比両国の動きについても紹介されています。

PNLSCの活動の写真も使われています。



## 「便利だけが大変」な日本での子育て

**私**はクリス ヤワカ ムマル、36歳の日系人3世です。2010年、22歳のときに日本にきました。日本では車の部品工場で働き、今年は来日からちょうど15年になります。自分の家族、そして何人かの兄弟姉妹と一緒に三重県で暮らしています。

私の母は日本人の父とフィリピン人の母の間に生まれたダバオ出身の残留2世です。戦争中に祖父が亡くなり、母は他の家族とともにフィリピンに残されました。

小学校のとき、私は自分のちょっとかわった響きのミドルネームを不思議に思いました。そのとき、母は自分の父親は日本人なのだ打ち明けてくれました。母はまた、日本人の父に抱っこされたり遊んでもらったりすることが大好きだったとも話していました。

2005年頃、母が日本の子として認められるよう、父が書類の準備に毎日のように奔走していたのを覚えています。もちろん母も手伝っていました。やがて両親の苦労は報われ、ついに祖父の身元が判明しました。私の兄や姉たちは日本大使館にビザを申請し、日本に行きました。末っ子だった私は両親とともにフィリピンに残りました。2008年に兄の一人が私を呼び寄せるため在留資格証明書を申請をしてくれて、2年後に私も日本に来ることができました。

**最**初に日本へ来たとき、私はひどくおびえていました。両親と離れるのは初めてでしたし、働くのも初めてだったからです。フィリピンにいた当時の私は、いかなる組織でも働いた経験がありませんでした。私にとって日本語を理解し、話すのは大変なことでした。YouTubeでビデオを観たり、日本語の単語帳を読んだり、職場の日本人の同僚と会話をしたりして勉強しました。次第に私は日本の文化に適応していきました。

日本で働けるのは両親が大変な思いをして頑張ってくれたおかげなので、私は両親にとっても感謝しています。母は2014年7月、誕生日の2日前にダバオで亡くなりました。母を失うことは人生の中でもっともつらい出来事でした。そして父も2019年に亡くなりました。

**2**018年に私は結婚し、2019年5月に日本で息子を産みました。息子は毎日保育園に通っています。時々「疲

れた」などと言って行きたがらないこともあります。行けば大体楽しんでいるようです。彼は少し日本語がわかり、また話すことができます。家では私たちは主に英語で、時々少しの日本語とビサヤ語で会話をします。私が、日本語の文字、ひらがなやかたかなを息子に教えることもあります。



夫と息子と横浜赤レンガ倉庫にて

**日**本で子育てをするのは簡単ではありません。息子には私たちの話す言葉（ビサヤ語）のほか、日本語を教えないければなりません。“よかったな”と思ったのは、私が車の運転免許を持っていたことです。車で保育園への送り迎えができるので助かりました。

息子が生まれるときは大変でした。手伝ってくれる人が家にいなかったからです。私と夫の2人ですべてのことをやらなければならませんでした。フィリピンであれば、義理の母がいますので、何か手助けが必要なときは頼むことができたでしょう。ですが、ここ日本では、すべてを“自分で”やらなければなりません。

日本で暮らすことは簡単ではありませんが、生活はとても便利です。私は今後もここ日本に住み続けたいと思っています。なぜなら私たちの生活、仕事はここにありますし、息子もここで勉強しているのですから。フィリピンは、数週間または数か月、休暇を過ごす場所になるでしょう。



両親（中央）を囲んできょうだいたちと（筆者は2列目右から2人目）



## マニラ麻の葉陰の下に憩う晩年の祖父の姿

### ポレポレ東中野での映画上映がきっかけに

私は、映画『日本人の忘れもの フィリピンと中国の残留邦人』を見てPNLSCの活動を知りました。2020年の春ごろ、たまたま手にした新聞記事でこの映画が紹介されていて、新型コロナウイルスの感染が拡大する時期ではありましたが、都内のミニシアター「ポレポレ東中野」へ出かけました。

映画の印象は圧倒的で、大切なものを忘れたまま過ごしてきた戦後日本の現実を突きつけられる思いでした。その場で入会を申し込み現在に至っています。同じ思いで入会された方もこの時期に多くおられると聞き、たいへん心強く感じます。

3カ月ごとのニュースレターは既に20冊を越えました。日本国籍を回復された方々の喜びのコメントを読むのが最高の楽しみです。一方、会に入れて頂いたおかげで、国籍回復の手続きがそう簡単ではないことも知りました。ですから、外務省関係者各位、フィリピン各地の日系人会スタッフなど、この問題に取り組む方々のご努力には、本当に頭の下がる思いです。

できるだけ早い残留日系人への国籍付与、そして手厚い慰労、慰霊が重ねられてゆくことを願っています。

### 古川拓殖創業者である祖父

私ごとになりますが、亡き母はダバオで生まれました。母の父親、つまり私の祖父は、戦前にこの地でさまざまな事業を営んだ古川拓殖株式会社の創業者、古川義三よしぞうという者です。母はダバオとバギオで幼少期を過ごし、学齢に達するころに日本での生活を始めました。義三は、戦争のさなかにもフィリピンと日本を足繁く往復していたようですが、幸運以上の奇跡に恵まれ、辛くも生き延びることができました。

戦後は、赤道直下、南米のエクアドルで、再びマニラ麻園を開いています。私は、大学生の時分に当たる1970年に、アンデスの山懐にいだかれた農場で、義三と共に何日かを過ごしたことがあります。祖父は、麻園の一角に作られた住宅群の一軒に寝泊まりし、昼は畑をまわり、夜は、ダバオでも愛用したヤンマーの発電機による裸電球のもと、ひとり詰碁を楽しんでいました。マニラ麻の葉陰が、晩年を迎えていた祖父にとっての安息

の場であったように思えます。

### 初めてのダバオ訪問で楽園の片鱗を見る

ところで、私共夫婦は、ことし3月に初めてフィリピンへ旅行に行きました。深夜2時に羽田を出発し、朝6時にはマニラへ着くという近さにまずびっくり。老夫婦にとって初めてのフィリピンゆえ、名物のジブニーに乗る勇気は出ませんでした。ホテルでチャーターした車で、ダリアオンの古川会社跡地と思われる場所、母の出生地であるレガスビ通り、カリナンのフィリピン日本歴史博物館、ミンタルの日本人墓地などを回りました。大農園は姿を消していましたが、暖かな気候、豊かな緑の連なりに、昔の日本人が夢に描いた楽園の片鱗を見た感じがします。

帰り道、車が動き出したあとになって、墓地の前の花屋さんに気付きました。次に訪れるおりにはずそこへ寄り、開拓に携わった方々の御霊に、きれいな花を手向けたいと考えています。



(写真上) 著者ご夫妻。カリナンの歴史資料館にて。(右) 歴史資料館には、ダバオの開拓に尽力した日本人たちの記録も展示されている。一番下が著者の祖父である古川義三さん。1914年、ダバオに入植、マニラ麻の出荷のためにダリアオに港を建設したとの記録が残る。



## PNLSC 活動報告 (2025.04.04-2025.07.08)

<b>04/07</b>	猪俣、フィリピン出張(～4/11)	<b>04/25</b>	猪俣、フィリピン出張(～6/5)	<b>06/12</b>	来所:日刊自動車新聞 中島さん
<b>04/14</b>	ニュースレター発送準備(ボランティア2名参加)	<b>04/28</b>	「GIVING for SDGs」説明会(田近)	<b>06/13</b>	来所:岡田さん、久保ノ谷さん
<b>04/15</b>	来所:沖繩タイムス 島袋さん	<b>05/01</b>	オンライン会議:無国籍ネット	<b>06/24</b>	プラチナギルドの会講演(猪俣)
<b>04/16</b>	ニュースレター発送準備(ボランティア3名参加)	<b>05/04</b>	ワーク(猪俣、田母神)	<b>06/25</b>	猪俣、フィリピン出張(～7/3)
<b>04/17</b>	来所:日刊自動車新聞 中島さん	<b>05/14</b>	プラチナギルドアワード授賞式(河合・田近)	<b>06/30</b>	来所:外務省南東アジア二課 竹野さん、藤長さん、安井さん
<b>04/18</b>	ニュースレター発送(ボランティア3名参加)	<b>05/14</b>	来所:外務省南東アジア二課 竹野さん、藤長さん	<b>07/02</b>	NHK取材
<b>04/21</b>	NHK取材・撮影(事務所内)	<b>05/23</b>	盛根さん親族対面(～5/27)	<b>07/04</b>	亜細亜大学講義(猪俣)
<b>04/22</b>	来所:時事通信 梅崎さん	<b>06/02</b>	来所:八若ファミリー3世8人	<b>07/07</b>	来所:毎日新聞 加藤さん
		<b>06/11</b>	来所:シンディ・マーティンさん(3世)	<b>07/08</b>	事務局会議、来所:(株)グロップ 密山さん、山之内さん

書き損じハガキのご寄付を  
お待ちしております!

## ご支援に感謝いたします (敬称略・順不同・2025.04.08-2025.07.03)

### 《新入会》

**団体正会員:** (株)アバンセラライフサポート

**個人正会員:** 星長吉、匿名1名

**個人賛助会員:** 坂板純義、廣瀬豊邦、藤寄政子、鈴木裕典

**学生会員:** 剣持彩人

**日系人会員:** パルトサ エイドリアンティ モシー、ヴィラマヨル エルリンダ、ムマル アロノルド ヤワカ、ムマルレイ ヤワカ、エバノソ クリス ムマル、ロサリー ネカ ヤギ ビセンシオ、レア ネカ ヤギ ビセンシオ、ルイス フィリップ ネコ ヤギ ビセンシオ、リリー ネカ ヤギ ビセンシオ

### 《会員更新》

**団体賛助会員:** ロックブリッジホールディング、(有)津島工業、

**個人正会員:** 伊藤英男、近藤洋ノ昌子、

**個人賛助会員:** 馬場成之、伊藤昌子、伊藤達己、一ノ瀬渉子、落合直之、龍田成人、吉村邦雄、明石英次、田中和成、宮里武志、鳥海典子、米野みちよ、嶋田久夫、青山大人、内山史子、高畑幸、松崎孝、沖本直子、伊吹忠之、大島由香子

**日系人会員:** カタオカ ヌルド レイナルド、ロセルセット マグバンナ、チグチグガビタ ブラダス、ピアン ノエル、トダ ロメオ カシアノ、パルトサ サカウエ パトリック マシュー、パルトサ エドウィン、金城ピンセント、パオ ノルマン ナカソネ、ミワレイ、シストサ エメリタ、シライシノ レトザパンタ、アココロ ウリエル ガスパール、アフリカノ ハタツブ ルイサ、ムマル オスワルド ヤワカ、屋宜ホセフィーナ ミチコ、アピラ ジュリエッタ ヤギ ビセンシオ、屋宜パブリ

ト、屋宜ポール、ジョンソン ペルリタ ヤギ ビセンシオ、リバルピンキー ヤギ ビセンシオ、屋宜ペルラ、マンラギット プレシー ヤギ、屋宜 プレツツェル、カートイーサン ヤギ ビセンシオ、サンクロエ ミチコ ヤギ ビセンシオ、サンカリアレクセイ ヤギ ビセンシオ、ミヤギマチコ

**寄付:** 馬場成之、中村紘子、小野恭子、みなも書房、明石英次、鍵和田美津子、鈴木重之、田中和成、宮里武志、鮫島道子、ロセルセット マグバンナ、鳥海典子、米野みちよ、嶋田久夫、日野成人/陽江、岩佐敬子、日下元及、藤寄政子、河合弘之、鈴木美智子、福井学、橋本和雄、宮川典子、伊吹忠之、山城玉美、市原誉子、シャープ 茜、匿名3名

**物品寄付:** 北田依里

※認定 NPO への合計 3,000 円以上の寄付、個人・団体賛助会員、学生、日系人会員の会費は寄付控除、法人税優遇の対象となります。(但し、正会員会費と各種入会金は控除の対象外)

※領収書(寄付金受領証明書)について、今後は1月～12月にご入金いただいた領収書をまとめて翌年1月にお送りすることとさせていただきます。すぐに領収書をご入用の方は恐れ入りますが事務局までお知らせください。

## 事務局だより

沖縄の親族がフィリピンの2世を訪問するという嬉しいできごとが続きました。戦後80年経ってなお、間に合うこと、やるべきことがあるのです。石破首相の答弁にあったとおり、今夏、日本政府は身元捜しのための一時帰国事業を実施します。願っていた規模とはいきませんでした。大切な戦後80回目の夏が来ます。



エミーさんが退職してから長らくジェンさん一人で頑張っていたマニラ事務所に待望の新スタッフとして日系4世のカーティさんが来てくれました。「みなさんこんにちは。1990年生まれ、35才のマリア キャサリン オヴィエドです。カーティと呼んでください。私の国の日系人を支援するNPOの一員になれたことを誇りに思います。さらに多くの日系人たちの身元確認を実現させていきたいです。どうぞよろしく願いたします」(カーティ:写真左)

## マニラ事務所便り

### ご入会・ご寄付のお願い

#### ■正会員

(団体)	入会金	30,000 円
	年会費	24,000 円
(個人)	入会金	10,000 円
	年会費	12,000 円

#### ■賛助会員

(団体)	入会金	10,000 円
	年会費	12,000 円
(個人)	入会金	1,000 円
	年会費	6,000 円

#### ■学生会員

入会金	なし
年会費	3,000 円

#### ■日系人会員

入会金	なし
年会費	3,000 円

#### ■銀行口座

みずほ銀行 四谷支店  
普通 1985293

ゆうちょ銀行 〇一九支店  
当座 00130-6-333599

※名義はいずれも「フィリピンニッケイジンリーガルサポートセンター」

#### 発行

認定 NPO 法人

フィリピン日系人リーガルサポートセンター  
(Philippines Nikkei-jin Legal Support Center)

代表理事: 河合弘之 Hiroyuki KAWAI  
猪俣典弘 Norihiro INOMATA  
事務局長: 石井恭子 Kyoko ISHII

〒160-0003  
東京都新宿区四谷本塩町4番15号 さくら共同ビル B1  
TEL:03-6709-8151 FAX:03-6709-8152  
E-mail:info@pnlsc.com URL:http://www.pnlsc.com

